

@@

立命館大学スポーツ健康科学研究センターBeActive研究会
「BeActiveニュース」第6号・第7号 2016年7月1日（金）

@@

【第6号】

執筆者：藤田 聡 （スポーツ健康科学部 教授）

BeActive研究会「BeActiveニュース」

第59回日本糖尿病学会年次学術集会在2016年5月19日（木）から21日（土）までの3日間、京都市の国立京都国際会館、京都市勧業館「みやこめっせ」、ロームシアター京都の3会場で開催されました。

藤田研究室では効率的な筋肉量の増加に向けた運動・栄養介入に関する研究を実施しておりますが、本学術集会ではシンポジウム発表1題と口頭発表2題を行いました。

演題タイトルは以下のとおりです：

- ・シンポジウム「ライフステージに応じた栄養指導：栄養摂取と運動刺激の組み合わせによるサルコペニア予防」藤田聡
- ・「単回レス?スタンス運動に伴う AMPK のリン酸化及び? GLUT4 のトランスロケーションは一型糖尿病モテ? ルラットの骨格筋で?減弱しない」木戸康平 他
- ・「1 型糖尿病における運動による持続的な糖代謝亢進か?遅発性低血糖を引き起こす」佐藤 幸治（神戸大学大学院）他

筋肉量の低下は糖尿病や心疾患のリスク因子であることが近年報告されています。また筋肉量の増加に向けた運動介入はインスリン感受性の改善効果が認められる一方、1型糖尿病患者においては運動実施に伴う就寝中の低血糖症も報告されており、糖尿病患者に向けた適切な運動ガイドラインの作成が急務となっています。

我々の研究室では引き続き、骨格筋と糖代謝に関する研究を実施する予定です。

【第7号】

執筆者：佐久間 （スポーツ健康科学部 教授）

BeActive研究会「BeActiveニュース」

- ① 学会発表（2016年）
 - ・「スポーツ選手の状況判断時の特徴評価における事象関連電位とメンタルローテーション課題の有用性の検討」第44回日本バイオフィードバック学術総会(6月12日)
時々刻々と変化する競技場面では瞬時の適切な状況判断が求められる。また、同じ種目であってもチーム内の役割・ポジションによって状況の認知過程は異なってくることも予想される。そこで、状況判断の速さや正確性およびその過程の特徴評価の方法として、脳波・事象関連電位(P300)とメンタルローテーション課題からその特徴を明らかにした。
 - ・「Psychophysiological characteristics of ice hockey goaltenders in subitizing」AAPB 47th annual meeting 2016(March 11)

視覚刺激に対し瞬間的に識別できる個数に一定の傾向のあることが知られているが、必ずしもスポーツ競技場面においては当てはまらず、脳波マッピングからもその特徴的な違いを見出した。

② 現在取り組んでいる研究

- ・プロスペクト理論（選択対象事象の価値・期待値が同等の場合、損失回避を優先する。）をスポーツ行動に適用し、事象関連電位を基に脳波学的に証明する。
- ・メンタルトレーニングにおけるバイオフィードバック技法の適用
非接触型の機器により、競技現場でも活用できる方略を見出す。
Interface 2016年3月号(123-127)・4月号(110-114)に紹介

@@

スポーツ健康科学研究センター
BeActive研究会
公式ホームページ

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/spoken/index.html>

研究会イベント、シンポジウム情報、及びメルマガバックナンバーなど掲載！